

### 1. 本園の教育保育目標

保護者の協力を得て、多くの良質な体験を通して自信を持たせ、園児個々の成長目標を達成する

- ・心情(Feeling)の豊かな子ども…「感情表出」「愛情」「他への理解」「申告意欲」「試行意欲」「連帯意欲」「正義感」
- ・態度(Manner)の良い子ども…「挨拶」「謝罪」「感謝」「懇願」「自己責任」「選択責任」「勝者の義務」
- ・自主的に行動(Behavior)できる子ども…「規律遵守」「忍耐」「勇気」「責任感」「委任追従」「自己主張」「自己顕示」
- ・個性(Identity)豊かな子ども…「演出表現」「演技」「言語」「心情表出」  
 「絵画制作」「興味・関心」「集中・熱中」「創造・想像」
- ・健康(Health)な子ども…「運動・体力」「走・跳・投」「泳・潜」「持久意欲」

### 2. 今年度、重点的に取り組む目標、計画

- ・共通認識のもと、職員一人ひとりが自分で考え、積極的に行動し保育の質の向上に努める。
- ・地域に根付いた保育施設となるよう、視野を広く持ち地域支援、保護者支援に努める。
- ・キャリアアップ研修やその他の研修で学んだことを実践する。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目(課題)		取り組み状況
①	・職員一人ひとりが自分で考え、行動できるようにする。	・その時の子どもの様子を見て、必要な玩具や環境を考え、取り入れることが出来た。 ・係りや役割については、計画的に取り組み進められた係りと、あまり活動が出来ていなかった係りがあった。
②	・地域、保護者に寄り添った支援を行う。	・ほほほの会では、参加した保護者の方の悩みや話を聞くことが出来た。 ・コドモンでの動画配信サービスを始めた。在園時保護者に動画配信することで、園での子どもの様子を見てもらうとともに職員がどのような声かけ、関わりをしているかなども見もらった。
③	・研修で学んだことを園で共有し、実践につなげる。	・子育て支援の研修から、ほほほの会でスマホ育児が与える影響を伝えた。発達支援の研修からは、子どもが分かりやすいようにカードを取り入れるなど日々の保育で実践した。 ・職員会議にて研修報告や看護師の研修などの園内研修を月1回行うようにした。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・乳児クラスの職員から日誌について見直したいと提案があった。振り返り、クラス間での共通認識がより明確化できるよう職員間で話し合い、見直すことで一人ひとりが意識しより活用できるようになった。  
 ・地域の方にテラスの水遊び場を開放した。気温が高くなっていることもあり、安全面に考慮し、今後の取り組みを工夫していきたい。また、ほほほの会では、定員に満たないことがあった。  
 ・H.Pの更新は多くはなかったが、コドモンでの動画配信サービスを始め、クラスにばらつきはあるが、積極的に配信できた。

#### 5. 今後取り組むべき課題(次年度へむけて)

課題		具体的な取り組み方法
①	共通認識のもと、一人ひとりが考えて行動する。	・役割、係りについては、最後まで責任を持って取り組み、次に繋げられるようにする。また、係りでなくても気づいたことなどは率先して行うようにする。クラス会議や部署会議の中で、お互いに気づいたことなど一人ひとりが意識できるようにしていく。
②	地域、保護者支援に積極的に取り組む。	・ほほほの会の内容を工夫し、多くの方に楽しく参加していただけるようにする。また、地域の方に選んでいただけるようH.Pの内容や取り組みの工夫をし、充実したものにしていく。
③	研修で学んだことを実践に繋げられるようにする。	・月に1度は園内研修を行い、職員間で研修内容について情報共有し、実践に繋げられるようにする。また、その後の振り返りもしっかり行っていく。

#### 6. 学校関係者の評価

令和5年度は金利のある世界、物価高、人手不足、超円安などが象徴するように、これまでの日本社会の転換点として位置づけられるような歴史的な変化が起きた一年であった。当法人の経営に対してはそのような社会経済環境の激変が大変大きな逆風ではあったが、前例踏襲、横並び、行政からの指示待ちという悪い慣行をかねてから排除して、自らが社会に評価されるように努めることを理事長が長年、推進して行動指針とされてきた成果が大いに発揮されたとも言え換えることのできる一年であったと総評できる。

当法人は傘下の施設間の人材交流やアワードバンケットに象徴される保育・幼児教育の研究開発・技術革新に注力し活発化することを通して、逆風下にあっても日本社会、保護者の方々、お子様に必要とされる保育・幼児教育への投資や研鑽を片時も止めることが無かった。更に、保育教諭・保育士・幼稚園教諭・栄養士・調理師・看護師・公認心理士、臨床心理士などが施設の壁を越えて連携できていることで、保護者の方々やお子様にとって必要な保育・教育の価値を提供できるサプライチェーンが切れ目なく整えられていることは当法人の強みであったと評価できる。

これらのことが今後も継続し、尚且つ発展的に展開していけるようにするためには人材の獲得と育成が大切であり、法人としては本年度も資源配分の多くを人に向ける努力をされたことは称賛に値する。

人材こそが価値創造の源泉であるとの思いから、物価高や少子化といった収益環境の悪い中にあっても当法人として将来不安をなくすための健全性の確保には、理事会・評議会も現場の方々に寄り添いながら協力して努めてまいりたいと考えている。

令和6年3月26日 理事会・評議会